



共生社会システム学会ニュースレター The Association for Kyosei Studies News letter

2021年7月1日発行 第25号

目 次

1. 2021年大会（金沢大学）の開催について（第2報）	1
2. 2020年度第3回運営委員会 議事概要の報告	3
3. 編集委員会からのおしらせ	3
4. 運営委員会事務局だより	4
5. 会費納入のお願い	4

1. 2021 年度大会（金沢大学）の開催について（第2報）

2021年度大会（金沢大学）を、以下の要領で開催いたします。今大会は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面とオンラインの双方での実施（ハイブリッド方式）といたします。会員各位の積極的な参加をお願いします。

- ・日程：9月25日（土）・26日（日）
- ・会場：金沢大学角間キャンパス総合教育棟
- ・大会実行委員長：金沢大学教授 市原あかね
- ・プログラム

9月25日 14：00～17：00 開催校シンポジウム

「SDGsの現状と可能性：内発的発展論の視点から（仮）」

9月26日 9：00～12：00 一般報告，会員企画ワークショップ

12：00～12：50 理事会

13：00～13：30 総会

14：00～17：00 15周年記念シンポジウム

「ポスト新自由主義のビジョン：コロナ禍後の社会と共生」

- ・開催校企画シンポジウム「SDGsの現状と可能性：内発的発展論の視点から」（仮）

SDGsは、社会的責任投資の動きと連動し企業や自治体の取り組みとして広く認識され実施されているが、環境サイドからは環境制約の位置づけが不明確だとして批判され、格差や貧困問題等に取り組む団体との連携も積極的に展開されているとは言えない。その出発点や標語「誰一人取り残さない」を見れば、SDGsが環境、格差・貧困、排除を総合的に克服するべく共生社会の実現をめざすものであることは明らかである。しかし、残念ながら、今日の取り組みの多くが総合的な発展の展望を打ち出すものとなっておらず、「SDGsウォッシュ」と揶揄されかねないの

が現状である。

この乖離を乗り越えるために、学際的な教育や研究が打ち出すべきSDGs型発展の理念・現状認識・方法論はどのようなものだろうか。この課題は、地域開発／発展（regional development）学の教育・研究を目指す金沢大学人間社会学域地域創造学類（開催責任者の所属する教育組織）にとっても、共生社会システム学会にとっても、正に自らの課題と言える。

そこで、今大会の開催校企画は、この課題を取りあげ、地域社会が開発／発展の主体となる発展論、内発的発展論の視点にたつて、SDGsの形成過程、企業や行政の取り組み、途上国の取り組みを整理検討するなかで、(1)SDGsの背景（MDGsからSDGsへ）、(2)SDGsの目標同士の関係（地域の複雑な利害関係、総合性の重要性）、(3)SDGsを通じた地域主導の発展政策の策定可能性（自治体等地域レベルの多様な当事者の参画と多様な地域課題の統合可能性）、(4)SDGs型発展の諸条件（国際・国内レベルの経済的制度的可能性の成立状況）について理解を深め、地域開発・発展学（地域創造学の課題）と共生社会システム学、双方の学問的充実に貢献することを目指す。

・15周年記念シンポジウム 「ポスト新自由主義のビジョン：コロナ禍後の社会と共生」

世界的なコロナ禍のなか、社会のパラダイム・システムは大きく変わるとされる。どのような転換点となり、どのような変化なのか。このもとでの、人と自然、人と人（社会）、人と文化（風土）の関係性と方向性とはどのようなものなのか。「共生社会」や「共生」概念に着目し、本学会の当面の「3つの課題」から接近する。

座長：矢口芳生（福知山公立大）

①地域の再生：市原あかね（金沢大）、コメンテーター：武谷嘉之

②〈農〉の再生：新井祥穂（農工大）、コメンテーター：桑原孝史（日生命大）

③他者との共生：片山善博（日福大）、コメンテーター：岡野一郎（農工大）

・懇親会はありません

・大会参加費

発表者 正会員1,500円／学生会員1,000円

対面・オンライン参加 正会員1,500円／学生会員無料／非会員2,500円／学生非会員1,000円

※15周年記念シンポジウムのみ参加の非会員 2,000円

・募集

大会での一般報告および会員企画ワークショップを募集いたします。希望される会員は、学会ホームページの「2021年大会」タブより「報告の募集について」を参照し、a)個別報告申請書と b)報告要旨を作成し、7月31日（土）までにご提出下さい。筆頭報告者が会員であるなど、受付のための要件を確認した上、認められた報告につきましては、c)報告内容資料（様式自由）を、8月31日（火）までにご提出いただきます。詳細については学会ホームページ（<https://www.kyosei-gakkai.jp>）の「2021年大会」にて公開いたします。

提出先：

新井祥穂（運営委員会 副委員長・東京農工大学） sachiho☆cc.tuat.ac.jp

（☆を@に変えて送信してください）

2. 2020年度第3回運営委員会 議事概要の報告

日時：2021年5月23日（日） 14:00～17:30

場所：オンライン開催

出席者：矢口，古沢，荒木，市原，岡野，吉田，新井，桑原 欠席者：稲村

主な議事：

(1) 会誌14巻・15巻の状況

14巻をようやく刊行できたことが報告された。大幅に遅延したことについて、改めておわびがあった。

15巻について、稲村委員作成による資料をもとに刊行スケジュールが説明され、大会までには発行できる見込みであることを確認した。

(2) 2021年大会開催校からの大会準備状況を、市原委員から説明された。

関連して、個別報告・会員企画ワークショップ募集文面の検討（新井）

個別報告 共同報告者の参加費は、「参加者」と同様

ワークショップ 非会員登壇者は無料

昨年行う予定だった、会員発表者向け Wi-Fi レンタル料の学会負担は、今年はなし
参加費や報告者書類の徴収時期と方法を確認。→古沢先生より Peatix を紹介いただく
開催校関係者は学会員と同額とする

(3) 会員動向（稲村委員） ※入退会なし

3. 『共生社会システム研究』編集委員会からのお知らせ

(1) 『共生社会システム研究』第14巻について

第14巻をようやく刊行することができました。本巻の発行が大幅に遅れまして、会員の皆様には多大なご迷惑とご心配をおかけいたしました。誠に申し訳ございませんでした。

(2) 『共生社会システム研究』第15巻について

現在、投稿論文の査読が行われています。編集作業は順調であり、2021年9月に刊行の予定です。本巻には、学会15周年に向けた特集の第2回目を掲載予定です。

(3) 『共生社会システム研究』第16巻について

『共生社会システム研究』第16巻への投稿原稿を募集します。ふるってご投稿下さい。

締切日は2021年11月1日（月）です。締切日を超えた投稿については、原則、次巻（第17巻）掲載の原稿として取り扱いますので、あらかじめご承知おき下さい。

投稿にあたっては、指定のフォーマットを使って原稿を作成していただきます。このことを含め、当学会ウェブサイトに掲載された投稿規定、執筆要領をよく読んで原稿を作成し、投稿して

ください。

◎今回、学会15周年を記念して、特集論文を募ります。本ニュースレター記載の記念シンポジウムの欄に挙げられている3つの課題「地域の再生」「〈農〉の再生」「他者との共生」に関する論文、あるいは「共生と共生社会」に関する論文をふるってご投稿下さい。なお、この特集論文として投稿される際は、投稿票の種別の欄に「特集論文」とご記載下さい。執筆要領などは通常の「論文」と同等です。

原稿の送り先：

東京農工大学工学部知能情報システム工学科

『共生社会システム研究』編集委員長 岡野一郎

E-mail: i-okano☆cc.tuat.ac.jp (☆を@に変えて送信してください)

4. 運営委員会事務局だより

ようやく学会誌 14 巻を発行できました。会費の請求等の事務局機能につきましても、立て直しを図りつつあります。会員の皆様のご理解と、ご協力を賜れば幸いです。

皆様からのニュースレター原稿を募集しております。会員の活動紹介等も歓迎いたします。投稿は吉田(HALLA☆cc.tuat.ac.jp ☆を@に変えて送信してください)までお送りください。

5. 会費納入のお願い

2021 年度会費の納入をお願いいたします。会費は、一般会員 6,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員 20,000 円となっております。よろしくごお願い申し上げます。2020 年度以前の会費を未納の方は、未納分も含めて納入をお願いいたします。

共生社会システム学会ニュースレター 第25号 2021年7月1日発行

編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局

連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学農学研究院 吉田 央研究室 気付

TEL: 042-367-5588 E-Mail: HALLA@cc.tuat.ac.jp

郵便振替 00130-6-372850 (加入者名) 共生社会システム学会